



紫光

令和4年度 冬休み号
亀岡市立詳徳小学校
令和4年 12月23日発行

世界とつながって

年の瀬を迎え、日に日に寒さが厳しくなりますが、外で元気に遊ぶ子どもたちや、氷や霜を触って喜ぶ子どもたちを見ていると、冬の寒さも楽しさに変えるエネルギーを感じ、うらやましくも、微笑ましく感じます。本日、終業式を行い、長かった2学期が終了しました。まだまだコロナ禍の影響を受け、以前の形にすべて戻すことはできなかったものの、スポーツフェスティバルや学習発表会、大縄大会やなかよし班活動等が実施でき、それぞれの取組の中で、子どもたちが力を発揮してくれたことを何より嬉しく思います。これも保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解とご協力のおかげと心より感謝いたします。

さて、今年は、冬季では過去最高のメダルを獲得した北京オリンピックから始まり、ウクライナでの戦争、「新しい景色」を見ることを目標に掲げ、熱戦が繰り広げられたサッカーワールドカップ等、世界に目を向けることが多かった年といえるかもしれません。子どもたちが朝学習の時間に読んでいる朝日デジタル新聞に「国際子ども平和賞」を日本で初めて受賞した川崎レナさん(17歳)の記事が掲載されていました。この賞は、子どもの権利のために活動する若者を讃える賞で、過去にはパキスタン出身の教育活動家、マララさんも受賞した賞です。川崎さんは、子どもたちが社会をよくするアイデアを持ったとき、学校以外で実現できる場があればと、国際 NGO の日本支部を立ち上げ、若者と政治を近づける活動をされています。このような活動をするきっかけは1冊の本「ランドセルは海を越えて」との出会いだったそうです。何か自分にできることがあるのではないかと、できることをやってみようという気持ちが行動力に繋がったのだと思います。川崎さんは「一番難しいのは、一步をふみ出すこと。でもその一步さえふみ出せば、話を聞いてくれる大人がいたり、仲間を見つけられたりする」と小学生の皆さんにメッセージを送っています。世界では日々様々な出来事が起こっています。それらをどう捉えるか、自分事として考えられるかが重要であり、世界に広く目を向け、自分もその中の一人として行動できる力を子どもたちには身につけてほしいと願います。

いよいよ、明日から冬休みに入ります。約2週間の休みの間に、クリスマス、お正月もあり、ご家族で過ごされることも多いかと思えます。健康にはくれぐれもご留意いただき、楽しいひとときを過ごされますことを願っています。また新しい年を迎えるという大きな節目の時を大切にいただき、気持ちもあらたに意欲をもって頑張れるよう、子どもたちとともに目標や抱負について話をさせていただけると幸いです。最後になりましたが、保護者の皆様、安全協力員の皆様、防犯推進委員の皆様をはじめ登下校の見守りをお世話になっている皆様、読書ボランティアの皆様、そして本校をあたたく支えてくださっているすべての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。来年も引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

亀岡市立詳徳小学校長 平井 眞理子

篠町調査隊 12月2日(金)

3年生は、総合的な学習の時間に篠町について詳しく調べています。その中で特産品として栽培されている聖護院かぶ・聖護院大根等について、JA 京都亀岡中部支店の待田様にお越しいただき、栽培方法や生産に携わる人々の思いや願いについて話をいただきました。子どもたちは、実物を目の前にして興味津々に話を聞き、学びを深めることができました。

生命のがん教育 12月15日(木)

京都市立病院の森口先生にお越しいただき、6年生を対象にがんの予防や早期発見と治療について話をいただきました。子どもたちは、先生や実際にがんを経験された方のお話を真剣に聞き、命の尊さについて考えました。また、食事や運動等の生活習慣を整えることの大切さを改めて学ぶ機会となりました。

